

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	東住吉区
学 校 名	大阪市立矢田東小学校
学校長名	梶原 進

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・矢田東小学校では、第6学年 47名

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数とも、全国及び大阪市の平均正答率を下回る結果となった。正答率は国語の方が算数よりも全国及び大阪市の結果に近いが、両教科共に前回とほぼ同様で、全国および大阪市の結果よりも約15～20ポイントの差がある。国語・算数とも共通した傾向として、正答率の高い上位層の人数が少なく、低位層が多い。また、この低位層は無答率が高かったということが分かっている。

質問紙調査では、「国語・算数のどちらも好きだ」と答える児童と「授業の内容はよくわかる」と答える児童の割合は全国及び大阪市よりも高い。だが「国語・算数ともに表現を工夫して書くこと」の項目は、全国及び大阪市よりも低くなっており、好きで、よくわかるが、なかなか分かったことを表現を工夫して書くことに結びついていない。また、自尊感情は全国及び大阪市よりも15ポイントほど低い傾向にある。読書量についてはやや改善してきている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、他領域に比べ差が少ない。しかし、「書くこと」「読むこと」では全国平均から「19.2」「19.5」ポイント下回る。条件に合わせて書くことに課題があるようである。また、「話すこと・聞くこと」では全国平均から21.1ポイント下回る。表現することに対して、話し合ったり考えたりしたことを、記述したり紹介したりする学習の積み重ねが大切となる。

〔算数〕

「数と計算」の領域では、全国平均から26.5ポイント下回った。「図形」の領域では、全国平均を26.0ポイント下回った。また、「データの活用」の領域では全国平均を22.8ポイント下回っている。基本的な「数と計算」を苦手とする児童が多く、この設問では計算間違いなどが比較的多くみられ、数と計算が必要な他の分野の問題では「無答」が多い。したがって、低学年からの基礎基本の学習の更なる定着が今後の課題となってくる。

質問紙調査より

「人が困っているときは進んで助ける」「いじめはどんなことがあってもいけない」に肯定的に回答した児童の割合は、ほぼ全国を上回っている。しかし、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」の項目については、下回った結果となった。昨年度からのコロナ禍での制限されえた学校生活の中では、児童同士の意見の交流を楽しむ場面や協力し合う機会が少なくなってしまうことも原因かと考えられる。今後は、そのような場を工夫して設定していきながら、学校が児童にとってさらに魅力的な場所となるよう考えていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

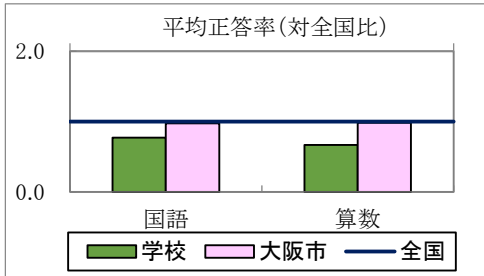
国語や算数を得意としている児童が少なく、今後も継続して習熟度別少人数学習やチャレンジ問題に取り組むなど学力を引き上げる手立てが必要である。とくに国語では「読んで理解する」ことを苦手としている児童が多く、習熟度別の活動や個に対する指導の工夫が必要である。また「書くこと」については、低学年からの系統立てた指導や「書く」技能の習得を確実にしていくことが大切である。漢字の書き取りでは、ある程度の正答率を維持することができている。これは「矢田東漢字検定」の学習効果が示された結果であると考えられる。「読書」については、さらに読書活動の充実を図るため、図書室の利用促進や「読書ノート」の継続活用にも今後も力を入れていきたい。

今回の調査でも生活習慣と学力に関係があることが明らかになった。「生活振り返り週間」など通して、児童だけでなく家庭・保護者にも啓発を進めていくようにしたい。

【 全体の概要 】

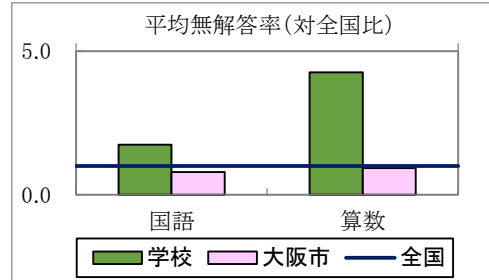
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	50.0	47.0
大阪市	63.0	69.0
全国	64.7	70.2



平均無解答率（％）

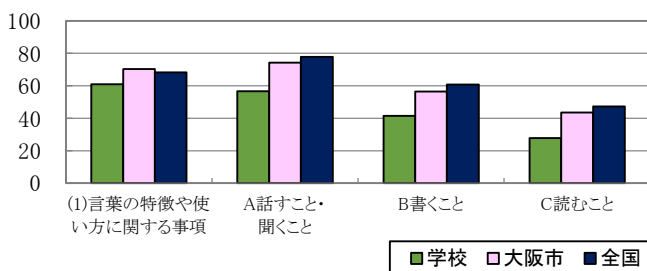
	国語	算数
学校	7.5	11.1
大阪市	3.4	2.4
全国	4.3	2.6



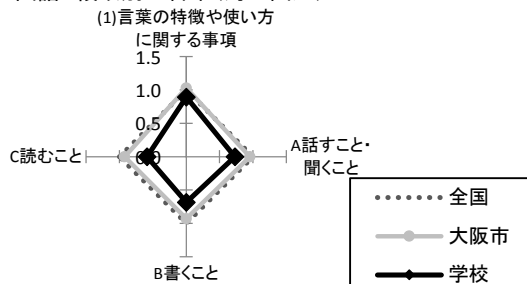
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	6	61.0	70.3	68.3
(2)情報の扱い方 に関する事項	0	0.0	0.0	0.0
(3)我が国の言語文 化に関する事項	0	0.0	0.0	0.0
A 話すこと・聞くこと	3	56.7	74.3	77.8
B 書くこと	2	41.5	56.4	60.7
C 読むこと	3	27.7	43.5	47.2

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



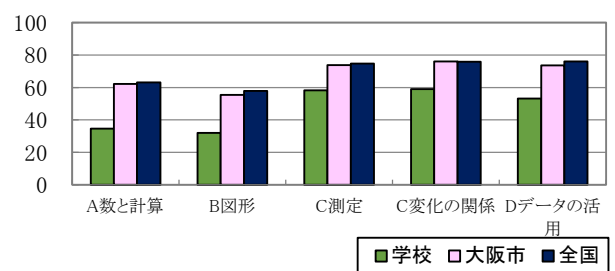
国語 領域別正答率(対全国比)



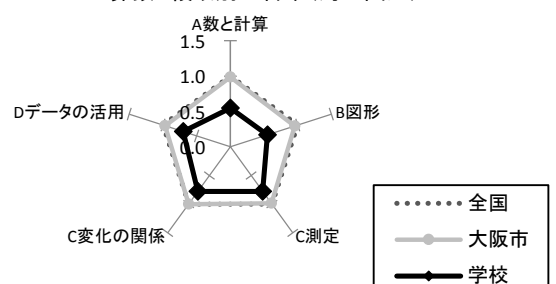
【 算 数 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	4	34.6	62.2	63.1
B 図形	3	31.9	55.4	57.9
C 測定	3	58.2	73.8	74.8
C 変化と関係	3	58.9	76.0	75.9
D データの活用	5	53.2	73.6	76.0

算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



算数 領域別正答率(対全国比)



児童質問紙より

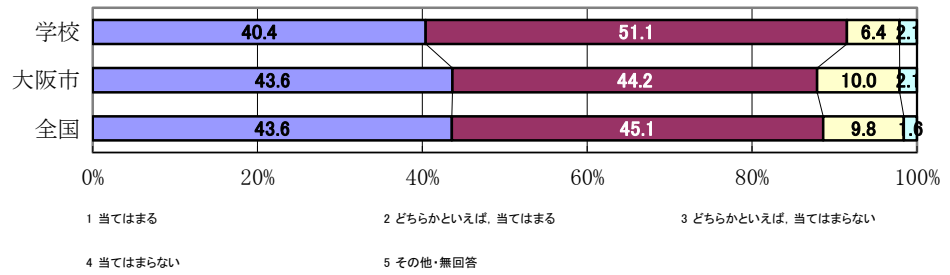
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

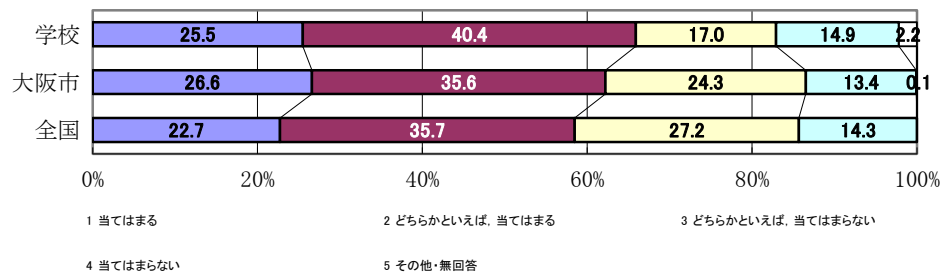
10

人が困っているときは、進んで助けていますか



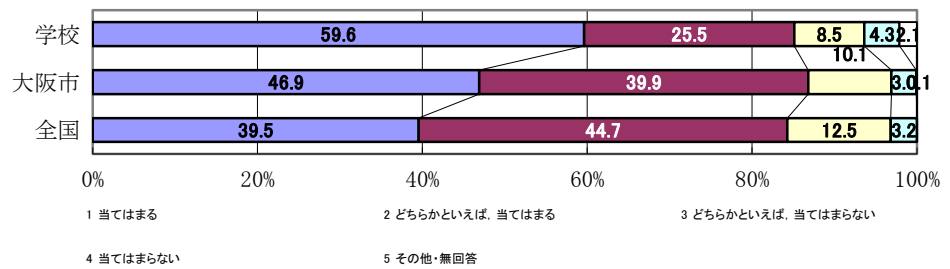
43

国語の勉強は好きですか



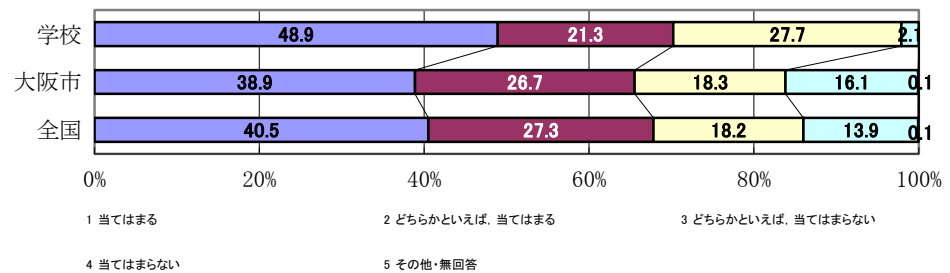
45

国語の授業の内容はよく分かりますか



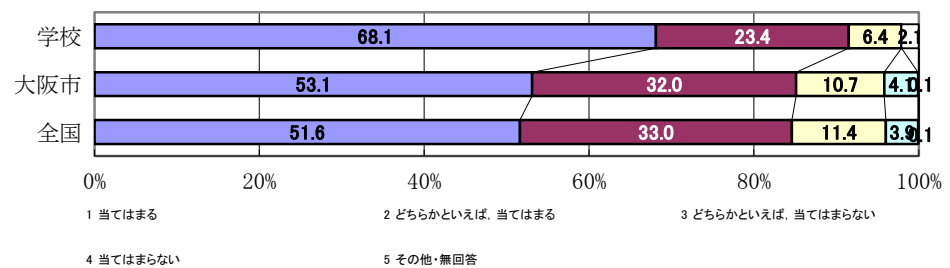
52

算数の勉強は好きですか



54

算数の授業の内容はよく分かりますか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8

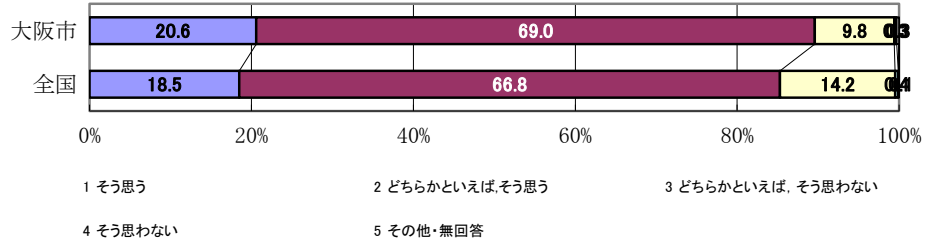
質問番号

質問事項

29

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか

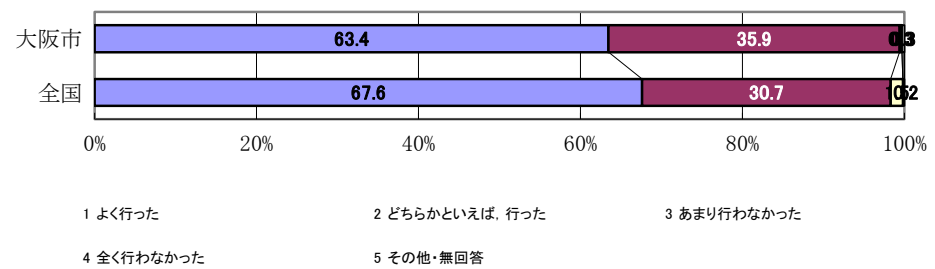
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



48

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか

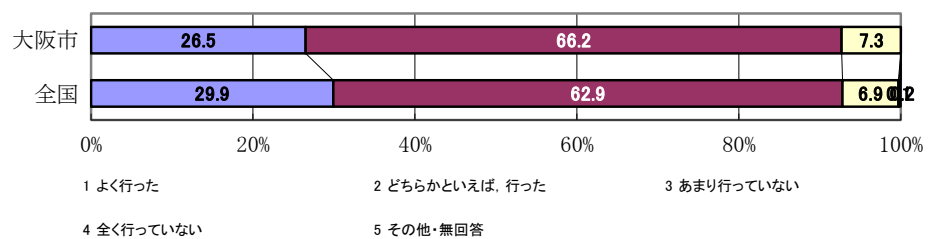
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



52

調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか

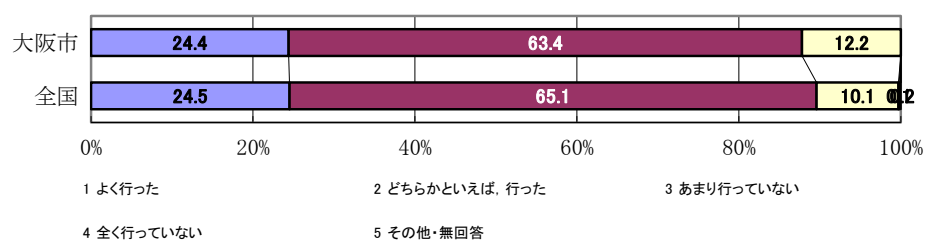
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



53

調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか

学校 「よく行った」を選択



63

コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備はできていますか

学校 「よくできている」を選択

